

ChibaTechNews

No_701

2025年12月号

千葉工業大学 入試広報部

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号

TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344



本学の社会変革への取り組みに期待 産学懇談会に583社699名が参加



講演会会場



櫻井国家基本問題研究所理事長

本学と企業が親睦を深め、学生の就職について情報交換する「産学懇談会」が11月6日(木)、東京・千代田区のホテルニューオータニ東京で開かれ、583社の人事・採用担当者が参加した。2025年度の入学志願者数は16万2005人で初めて私立大学のトップになり、前年度に比べて1万9360人増は全国最多の伸びとなった。一般選抜志願者数、志願者増加数、私立大学志願者数過去最多の3部門で初の3冠王を達成した。また、2024年度卒業者の実就職率は96%となり、卒業生数2000人以上の実就職ランキングで全国3位。「本当に強い大学ランキング2025」(全国562大学を対象)で全国総合14位、関東・首都圏エリアの私大では4位にランクインし、本学のブランド力向上に熱い視線が送られた。

産学懇談会は第一部・講演

会、第二部・情報交換会の二部構成で行われた。本学からは瀬戸熊修理事長、伊藤穰一学長をはじめ、教職員らが総出で企業の人事・採用担当者らに対応した。

挨拶に立った伊藤学長は、少子高齢化で定員割れの大学が増える中でも本学の志願者が増加していることに関し「調子が良い時に変えることは難しいが、今のうちにいろいろとやらなければならない」と指摘。本学が多様な教育機会の提供などを目的に米アリゾナ州立大学(ASU)と連携協定を締結したことやAIを積極的に採り入れている現状を紹介し、「皆様と学生を直接つなぐようなプログラムをやってみようと思う。是非参加していただきたい」と呼びかけ、プロジェクト型教育やアントレプレナーシップ(起業家精神)授業、英語活用などを進めていく考えを示した。

第一部では、公益財団法人「国家基本問題研究所」の櫻井よしこ理事長が「激動の世界での日本の役割～世界を主導する力は日本にこそある～」と題して講演。元日本テレビのニュースキャスターで、現在は

ジャーナリストとしても活躍する櫻井氏は「千葉工業大学は科学に挑み、それを世界に広げていくことをしている」と本学の取り組みを評価した。

その上で、10月に就任した高市早苗首相による日米首脳会談やASEAN首脳会議の意義に触れ、「私たちが考えなければならないのは、世の中で何が起きているのかということだ。国際社会ではいろいろなものが国境を越えて行き交う。日本はどういう価値観で、どういう手段で我が国を守ることができるのか。自由で開かれたインド太平洋という根本理念が日本の価値観である」と説明した。

一方、第二部では企業と各学科の就職担当教員との間で情報交換会が行われた。瀬戸熊理事長は挨拶で、少子化に伴う「2040年問題」への危機感を示した。18歳人口は現在約110万人いるが、2040年には約75%まで減少し、進学率の上昇を踏まえても定員割れ



瀬戸熊理事長

や統廃合・再編が加速することが見込まれる。理事長は、教育・研究力の強化に加え産業界や地域との連携が不可欠だと強調し、「本学は2025年度の入学志願者数が私大トップとなったが、日本の大学は危機にある。だからこそ生き残りを

かけて様々な転換を進めてきた」と述べ、新学部スタートや海外交流などを通じた教育のさらなる充実、技術者の育成などに全力を尽くしていく考えを表明した。

続いて、TOPPAN株式会社人事労政本部人事部の伊藤典之部長による乾杯の音頭で情報交換会がスタートした。伊藤氏は、本学の卒業生が社内に約60人在籍していると説明した上で「ビジネスモデルの変革



名刺交換をする伊藤学長(左)

に千葉工業大学の学生はマッチング性が高い。ますます縁が広がるものと強く期待している」と信頼を寄せた。

本学は2024年4月に「情報科学部」と「社会システム科学部」を改組し、「情報変革科学部」と「未来変革科学部」をスタート。2028年3月には新たな学びを得た卒業生が社会に羽ばたく。2025年4月には「機械電子創成工学科」が「宇宙・半導体工学科」に進化し、情報交換会では本学が社会変革の流れに迅速な対応をしていることへの期待が寄せられ、各学科のテーブル前には企業の参加者らが長い列を作った。



第二部の情報交換会の様子

[CONTENT]

【P2】宇宙環境の「現在と未来」を考える『SDGs未来都市共創フォーラム』を開催／STAIR Labと産総研による共同研究が国際会議に論文採択

【P3】Japan Mobility Show 2025

にfuRoと西田研究室が出展

【P4】デザイン科学科が地域企業との協働による実践型授業を展開／木澤さん「若手萌芽賞」受賞／橋本和明教授「セラミックス貢献賞(教育・試験

部門)」受賞／田代政司審議役が秋の叙勲で瑞宝重光章を受章／今年度の推薦系選抜が無事に終了

【P5】建築学科・今村研が「ひろしま国際建築祭2025」で模型作品を制

作／就職・進路支援便り

【P6】第76回津田沼祭／11月のできごと／1月のスケジュール

“すみだの宇宙資源”が東京スカイツリータウン®キャンパスに集結 宇宙環境の「現在と未来」を考える『SDGs未来都市共創フォーラム』を開催



講演の様子

墨田区主催の『未来都市共創フォーラム』が11月13日(木)、千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパスを会場に開催された。本フォーラムは、「区内の企業・団体・大学によるSDGsの先進的な取組を紹介し、公民学連携による新たな可能性を探る」ことを目的として行われたもので、テーマを「宇宙の未来と地域連携」に掲げて実施された。会場・オンラインを合わせ、約120名の参加が

あった。開会にあたり、山本亨墨田区長から「墨田を舞台として活躍されている皆様同士の連携や交流によって、宇宙に関する事業はもちろんのこと、産業振興として新たなビジネスが創出されたり、地域の活性化に繋がったりしていきたい」と挨拶。

続いて、株式会社アストロスケールの伊藤美樹上級副社長が「宇宙空間の安全と持続可能性-宇宙のロードサービスの実現-」をテーマ

に基調講演を行った。伊藤氏は、増加するスペースデブリ(宇宙ごみ)の除去課題や、“宇宙のロードサービス”を目指す最新の技術開発について紹介し、参加者は宇宙ビジネスの現実と可能性に理解を深めた。

本学からは、惑星探査研究センターの荒井朋子所長が登壇し、「日本の惑星探査の現在地-産学官連携による新たな潮流-」と題して講演した。荒井所長は、世界的に宇宙探査の主導が官から民へと移行する傾向を示し、宇宙産業を支える技術者育成の重要性を指摘。本学における宇宙教育の取り組みや、人工衛星・ロケット開発などの実践的プロジェクトを紹介し、「人材育成・教育」「多様化・加速化する宇宙産業への伴走支援」「産学官連携による宇宙科学研究とプラネタリーディフェンス(地球防衛)を見据えた探査の推進」という今後の展望を示した。

続いて、千葉大学宇宙園

芸研究センターの高橋秀幸センター長が「宇宙移住を実現する宇宙園芸研究-宇宙での食料生産を目指して-」と題して講演し、限られた資源環境下での植物育成研究や宇宙居住のための食料生産に関する最新の知見を紹介した。

最後のパネルディスカッションには、墨田区副区長の岸川紀子氏も加わり、宇宙産業を担う次世代の育成について、登壇者4名がそれぞれの立場から意見を交わした。宇宙への関心を高める教育の重要性、地域連携による雇用創出、若年層の宇宙産業への参画促進など、多面的な議論が展開され、会場は熱気に包まれた。



惑星探査研究センター 荒井朋子所長

ソフトウェア工学分野トップ国際会議ASE2025に論文採択 STAIR Labと産総研による共同研究

人工知能・ソフトウェア技術研究センター(STAIR Lab)と国立研究開発法人産業技術総合研究所による研究成果をまとめた論文が、ソフトウェア工学分野のトップ国際会議のひとつであるASE2025(40th IEEE/ACM International Conference on Automated Software Engineering)の研究論文トラックに採択された。

採択論文は「On the Correctness of Software Merge (邦題:ソフトウェアマージの正しさについて)」と題し、理論的に裏付けられた「正しさ」に基づく新しいソフトウェアマージ(ソースコードに対する複数の更新の統合)支援手法を提案している。

大規模なソフトウェア開発においては、複数の開発者がプロ

グラムソースコードの同一部分を同時に更新することが少なくない。そのような場合、複数の更新を統合するマージ作業が別途生じるが、その完全自動化は極めて困難であり、ツールを用いつつも人手による作業に多大なコストを要しているのが現状である。

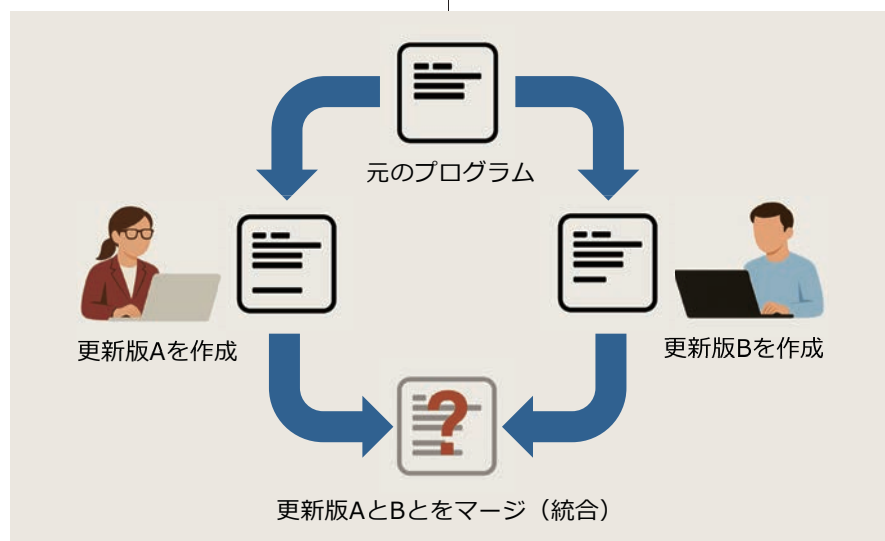
本研究では、提案手法が従来のマージツールを大幅に上回る事例において、複数の更新の要素を漏れなく反映した「正しい」マージ候補を生成できることを実証している。これにより、大規模ソフトウェア開発におけるコスト削減が期待される。

今後は、マージツール単体としての性能向上に加え、「正しい」マージが実現できているかどうかを評価するためのツールとしての応用・発展も見込まれる。本研究は、橋本政朋主席

研究員(人工知能・ソフトウェア技術研究センター)と、産業技術総合研究所サイバーフィジカルセキュリティ研究部門の森彰総括研究主幹により実施された。提案手法は、本学広報誌NEWS CIT No.667(2022年11月15日号)でも紹介された「Diff/AST」と呼ばれるツールを利用して実装されている。



STAIR Lab 橋本主席研究員



ソフトウェアマージ支援手法の提案

Japan Mobility Show 2025

10月30日(木)～11月9日(日)(一般公開:10月31日～)まで、東京ビッグサイトで「Japan Mobility Show 2025」が開催され、国内外の企業や研究機関が多数出展し、次世代のモビリティ社会に向けた多彩な提案が披露された。



学生の
アイデアを
もとに制作した
展示ブース

fuRoプラットフォーム型モビリティ Raptorで試乗体験



複数のモビリティに、多くの来場者が魅了された展示ブース

未来ロボット技術研究センター(fuRo)の古田貴之所長と、株式会社RDSの杉原行里代表取締役社長の二人が2022年に共同創業したスタートアップ企業「ROIDZ TECH」は、同ショーのTokyo Future Tour 2035 エリアにおいて新型モビリティ「Raptor(ラプター)」を出展した。

Raptorは独自の構造を持つ3輪のプラットフォーム型モビリティで、来場者はそのデザイン性と機構に興味を示していた。ブースには試乗体験エリアも併設され、実際に乗車感覚を確認することができる展示となった。

さらに、fuRoの研究員4名が試乗

の補助や解説を行い、来場者に向けてRaptorの特徴や技術的ポイントを丁寧に説明した。

また、10月31日から3日間、Next generation Fuel Carショーランに、自動車部が所有する1931年式フォード・モデルAフェートンが、カーボンニュートラル燃料を用いて特別走行を実施。

クラシックカーと最新の環境技術を組み合わせた取り組みとして、持続可能な自動車社会のあり方を提示した。



軽やかに走行する本学のクラシックカー

Raptor(ラプター)について

Raptorは、3輪構造を採用した「プラットフォーム型モビリティ」。最大の特徴は、下部のベースユニットと上部のデザインユニットが分離・合体できる点にある。独自の「連結ユニット」機構により、確実かつ容易に接続可能で、デザインユニットの交換によって多様なモビリティ形態を実現することができる。

学生の発想で描く未来のモビリティ 西田研究室

デザイン科学科西田絢子研究室は、株式会社トノックスおよびnicomobi株式会社と共同で出展。本出展は、学生の自由な発想を活かした「学生のアイデアで創る未来ブース」をテーマに、超小型電気自動車「クロスケ」「そらまる」が活躍する未来社会を表現。ブースデザインやフライヤー、ノベルティなどの制作を学生が担当した。

2023年に西田研究室とnicomobiが開始した超小型EV「クロスケ」のサービスデザイン開発から発展した本プロジェクトでは、トノックスが担う製造現場と学生の創造力が融合。大学院生・学部生がチームとなり、企画からデザイン

まで実践的に取り組んだ。

本取り組みを通じて、学生たちはデザインの力で社会課題に向き合い、次世代のモビリティ社会を創造する力を培っていくことが期待される。西田准教授は、「学生たちの自由な発想が企業の想いと重なり、モビリティの未来を具体的な形として社会に発信できたことは非常に意義深い」と話し、プロジェクトリーダーの久道慈恩さん(稲坂晃義研究室・修士課程1年)は「企業の皆様と意見交換を重ね、学生らしい自由な発想で提案する経験は大きな学びとなった。また、企業と協働し、社会に向けたデザインの現場に触れる貴重な経験になった」と語っている。

また、山口凜さん(4年)は「プラモデルのランナーをモチーフに、思わず写真を撮りたくなるブースを目指した」とコメントした。

(株)トノックス技術部の加藤俊彦次長からも、「学生の柔軟な発想力がプロジェクトに新しい風を吹き込み、企業としても刺激的な経験になった」とコメントが寄せられた。



学生が制作したフライヤー



展示に向けたデザイン検討の様子



来場者とのコミュニケーションを促すキーホルダー



西田研究室のメンバー

詳細は
コチラ



東京インテリア家具 幕張店×デザイン科学科 地域企業との協働による実践型授業を展開



東京インテリア家具幕張店
2階特設ブース

このたび、新習志野キャンパス前に位置する東京インテリア家具幕張店の開店20周年を記念し、同店と本学の協働による「新生活ポスターコンテスト」を実施した。本企画は、地域に根ざした店舗と大学が「新しい暮らしの提案」というテーマを共有し、教育と企業活動の双方から地域に貢献することを目指して実現したもの。特に、同社販売促進課の堀部壽史氏をはじめとする担当者が授業にも参加し、企業視点から学生へ直接アドバイスを行うなど、学外との協働を通じた学び

の場づくりが展開された。

デザイン科学科1年生の必修授業「情報活用及び演習」にて、140名の受講生が“新生活”をテーマにポスターを制作し、学内選考を経て選ばれた10作品が11月1日(土)～9日(日)の期間中、同店内に展示された。期間中、来場者の投票により優秀作品が選ばれ、実際に来年3月にポスターとして起用される。

学生たちは、実際に企業から提示された条件や展示計画に基づいて制作を進めることで、社会で求められるデザインの実務感覚と表現力を身



左から、堀部さん、上神田さん、
同社田中信幸部長



上神田さんの作品

につける機会となった。

投票の結果、最優秀作品は上神田ららさんの作品が選ばれ、「まさか自分が選ばれるとは思っていなかったので驚きましたが、最優秀賞という素晴らしい評価をいただけて大変嬉しく思います。東京インテリアという素敵な企業に私のポスターが使われるという実感がまだ湧きませんが、とても楽しみです」と喜びのコメントを寄せた。

大嶋辰夫准教授は「今回の作品は、学生の創意工夫と日頃の取り組みが形となったものです。授業や個々の活動の中で培ってきた力が、このような形で評価されたことを大変嬉しく思います。今後も、学生が自らの表現を広げていけるよう、

機会や環境のご協力をお願いしたい」、東京インテリア家具の堀部氏は「学生の皆さんの柔軟な発想と提案力に驚かされた。地域とともに歩む企業として、こうした連携を今後も続けていきたい」と述べた。

ロボット操縦体験会も開催

また、同店において、8日(土)、9日(日)に総合工学会(部長:箱崎輝樹/ロボ2年)による「ロボット操縦体験会」も実施され、学生自作のロボットを用いた体験企画が多くの家族連れで賑わった。

「これを目当てに来ました!」と朝早くから並ぶ家族連れや、「子どもがものづくりに興味を持つ良いきっかけになった」と保護者からも好評のイベントとなった。



ロボットを操縦する子供たち

受賞おめでとうございます



授与団体・受賞名称

人工知能学会
第16回対話システムシンポジウム
(第105回 言語・音声理解と
対話処理研究会)
「若手萌芽賞」

知覚可能なモダリティの違いが
クロスモーダルな共起笑いの
表出頻度に与える影響

木澤 妃名子 さん

情報科学専攻修士1年

有本泰子研究室

受賞日
11月11日

詳細は
コチラ



授与団体・受賞名称

公益社団法人
日本セラミックス協会
「セラミックス貢献賞
(教育・試験部門)」

橋本 和明 教授

応用化学科

セラミックス研究の発展に寄与するとともに、多くの大学院生を育成。生体関連材料部会の幹事を長年務め、部会活動を牽引した。β型リン酸三カルシウム研究では緻密体・多孔体の製造プロセスを提案し、教育・研究・普及に貢献した。

受賞日
10月10日

詳細は
コチラ



田代審議役 秋の叙勲

11月3日付で発表された秋の叙勲において、田代政司審議役が瑞宝重光章を受章した。

長年にわたり国家機関である会計検査院での行政公務や責任ある職務遂行を通じて公共に貢献した功績が評価された。



田代 政司 審議役

1979年東京大学教養学部教養学科卒業後、会計検査院に採用。同院において事務総局第1局長、事務総局次長を経て、2016年に事務総長を務める。2017年より学校法人千葉工業大学審議役。

今年度の 推薦系選抜が無事に終了

総合型(創造)選抜が10月11、12日に実施されたのを皮切りに、11月16日＝学校推薦型選抜(指定校制・帰国生徒指定校制)、同23日＝学校推薦型選抜(公募制・専門高校)、特別選抜(外国人留学生・帰国生徒・社会人)、編入学選抜(指定校制・高等専門学校)、が実施され、無事に終了しました。

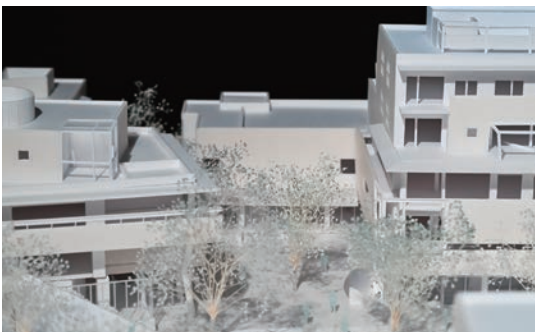
今年度の推薦系志願者総数は1618人(昨年1539人)。編入学選抜の試験志願者数は46人(昨年36人)となりました。

建築学科・今村研が出展 ひろしま国際建築祭2025で模型作品を制作

10月より開催されている「ひろしま国際建築祭2025」(10/4～11/30会期)の主要企画展「Nine Visions」に、建築学科・今村創平研究室が製作

した建築模型が出展された。本展は、国内外の建築家による提案と、現代建築史に位置づけられる名作の展示を通して、地方都市と密接な関係を持っ

た日本初の建築展である。
今村研究室は、「磯崎新」と「槇文彦」の展示パートに協力し、とくに槇文彦の代表作〈ヒルサイドテラス〉の模型(2025年制作)は研究室メンバー全員で取り組んだ大作である。〈ヒルサイドテラス〉は戦後日本の都市デザインの象徴とされる複合施設で、研究室では建築家の思想の理解、3次元データ作成を経て、都市空間の連続性を伝える模型として再構築した。本模型は、精密な完成度と空間理解に基づく表現が評価され、多くの来場者の注目を集めた。
今回の取り組みでは、模型制作に加えて展示の学術的



模型部分写真(撮影:©kutsu_ph)

背景整理にも研究室が協力しており、今村教授はギャラリー「ときの忘れもの」に連載したエッセイ(2025年10月29日掲載)にて説明をしている。展示制作には学部生・大学院生が多数参加し、資料調査から制作・仕上げまで1年にわたって取り組んだ。学生にとっては、建築論的理解と表現技術を総合的に学ぶ貴重な機会となった。



展覧会オープニング時の記念写真。ヒルサイドテラスを設計した槇総合計画事務所、現所長のゲーリー亀本氏(中央左)と

飯塚真尋 さん

模型では、建てられた時期により異なる建物のスケール感と素材を、丁寧に表現し作成しました。最終的な組み立てのために、尾道の美術館に行きました。視線の交わりや人々の動きを意識して模型に人の添景を入れ、ヒルサイドテラスが街や人にどのような影響をもたらしているのか、見てくださる方々に伝わるようにしました。

石井美沙 さん

実際にヒルサイドテラスを訪れて素材やディテールを観察し、3Dデータの製作から、模型の構成や制作方法についても自分たちで検討を重ねました。どのような表現が槇さんの思想をもっと的確に伝えられるのか試行錯誤を繰り返し、現在の模型にたどり着きました。

今村創平 教授

これまでの今村研では、展覧会での模型製作を何度か行ってきましたが、模型表現の検討、スケジュール管理、役割分担、予算検討、製作手順などを学生に任せ、私は適宜助言をすることとしています。そのグループワークによって、研究室のスキルが共有・継承され、また結びつきが強くなります。今回の模型はこれまでに手掛けたものの中で、最大規模のものでした。これだけのことを研究室として達成できたことにとても満足しています。

■ 参加学生

- 【修士2年】ばんないしゅんた坂内俊太／いのまた猪股楓／けんた川上拳汰／くつかけ沓掛涼太／そえしまみどり副島碧／ちひろ平瀬美咲
【修士1年】まこと飯塚真尋／あゆみ石井美沙／いつき奥富樹／ゆりあ佐藤祐莉彩／ちひろ藤本千廣
【学部4年】とくとみこう徳富阜／あゆみ浅見明優美／なぎさ磯貝凧沙／みゆう乾美優／そうま大池颯馬／そうま荻野大河／まひな金子雅史／
すがはらしいな櫻井朋哉／まひな菅原詩那／まひな鈴木真優／まひな広瀬真妃奈／まひな山岡智哉



詳細は
コチラ ▶▶



就職・進路支援便り

学部3年生・修士1年生向け支援(他学年の参加も可)

3年生と修士1年生は、いよいよ就職活動の本番間近です。自己分析や業界・職種研究、各種対策(筆記試験・履歴書・面接など)の準備が、内定獲得へのポイントです。準備が多く何をしたら良いかわからないなど不安があれば、個別相談も可能です。就職システムの個人面談予約や、窓口の当日面談予約を積極的に利用してください。

年明け1月は、千葉工大生を積極採用したい多くの企業から直接仕事内容やアドバイスを聞けるイベントを開催します。千葉工大生の採用意欲が高い企業と接点を持ち、積極的に情報収集しましょう。日程は次の通りです。

- ▶ 日程：1月19日(月)、20日(火)、21日(水)、26日(月)、27日(火)、28日(水) ※本イベントは、全学年の参加が可能

その他、履歴書写真撮影会、マナー講座等も実施しますので、就職システムで確認してください。引き続き、カウンセラーとの個別相談や、内定を獲得したばかりの先輩に相談できる「学生アドバイザー」の利用も可能ですので、就職システムから個人面談予約をご利用ください。学内の講座を活用して、万全な状態で臨みましょう。

学部4年生・修士2年生向け支援

引き続き個別支援を中心に行っています。多くの企業が採用を継続しています。就職スタッフが伴走しますので、お気軽にご相談いただき、オンライン相談会も活用してください。

オンライン相談会

完全予約制のオンライン相談会です。企業紹介、選考対策、自己分析など、希望に合わせて対応可能です。

- ▶ 開催場所：オンライン限定(ZOOM又はTeams)
- ▶ 服装：自由
- ▶ 就職・進路相談オンライン(26卒限定)予約フォーム：
<https://vivit.video/f/57/it-chiba>

1月以降、学内企業説明会や選考会を複数実施予定です。千葉工大生の採用意欲が高い企業が集まるため、例年参加学生の多くがこの時期に内定を獲得しています。未内定学生は必ず参加し、卒業までの内定を目指しましょう。詳細は決定次第メール配信や就職システムでお知らせします。今後、進路未決定の学生には、個別に電話連絡を入れることもあります。保護者の皆様と連携した支援が必要になることもありますので、その際はご協力をお願いいたします。

※4年生及び修士2年生で、既に就職や進学等の卒業後進路が確定している学生は、速やかに就職システムで進路報告の登録をお願いいたします。



来場者を迎える特製アーチ



開会式の様子



家族連れで賑わう電車祭り



津田沼祭実行委員長の栗原さん



書道倶楽部によるパフォーマンス



吹奏楽部



剣道部によるパフォーマンス



大学公式キャラクター
チバニ

11月22日・23日、津田沼キャンパスにて、第76回津田沼祭(実行委員長:栗原悠^{ゆう}/機械3年)が開催された。本年度のテーマは「由縁」。家族や友人など大切な人への感謝を伝える場であるとともに、これからの人生における第一歩を踏み出し、さらなる発展へとつなげてほしいという学生の思いが込められている。両日も晴天に恵まれ、模擬店やステージ企画など、学生企画による多彩なプログラムが行われ、2日間で約1万7千人の来場者でにぎわいを見せた。



津田沼祭を盛り上げる豪快な演舞



VR体験に挑戦



バンドの演奏で熱気あふれるステージ



大盛況のロボットコンテスト



毎年人気のちびっこてづくり教室



学祭の出店と言えばやきそば!



鉄道倶楽部による大人気のミニ電車



閉会式にて集合写真



- 11月1日 ○ 後期公開講座①英文学教養講座②数学教養講座
- 11月6日 ○ 産学懇談会
- 11月8日 ○ 後期公開講座①英文学教養講座②数学教養講座
- 11月14日、15日 ○ ベトナム・貿易大学へ瀬戸熊理事長が表敬訪問、創立65周年記念式典へ参加
- 11月15日 ○ 後期公開講座①英文学教養講座②数学教養講座
- 11月15日 ○ 全国私立大学教職課程協会教職課程運営に関する研究集会
- 11月16日 ○ 学校推薦型選抜(指定校制)
- 11月16日 ○ ロケットガール&ボーイ養成講座 ロケット打ち上げ
- 11月18日 ○ 八街市二州小学校5年生へのプログラミングモデル授業開講(ソーシャルAL)
- 11月22日、23日 ○ 第76回津田沼祭
- 11月23日 ○ 学校推薦型選抜(公募制・専門高校)・特別選抜・編入学選抜
- 11月27日 ○ 学内FD研修会(授業の国際化をはじめませんか)

1月のスケジュール

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31